

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：22302
研究種目：若手研究 B
研究期間：H20～H23
課題番号：20720243
研究課題名（和文） 異性装の特殊性と普遍性：インドのヒジュラとカナダのベルダーシュに関する調査研究
研究課題名（英文） Comparative Studies of Trans-gender and Trans-vesting

研究代表者 國弘暁子(KUNIHIRO AKIKO)
群馬県立女子大学・文学部総合教養学科・専任講師
研究者番号：20434392

研究成果の概要（和文）：インドのヒジュラとカナダのベルダーシュを考察の対象に据え、異性装の比較研究を実施した結果、当該社会において、異性の衣装を身に纏う行為が、単なるジェンダーの逸脱や倒錯としてではなく、異なる力や聖性を表現する実践として認識されている、あるいは、されていたことが明らかとなる。

研究成果の概要（英文）：Practices of Trans-gender and Trans-vesting among Indian people and First Nations of Canada does (or did) not signify the Third gender status nor sexual pervers, but a gifted spiritual power and the sacredness in their societies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
21 年度	900,000	270,000	1,170,000
22 年度	600,000	180,000	780,000
23 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：若手研究 B

キーワード：異性装、現世放棄、模倣、ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

インド、グジャラート州で生活を営むヒジュラ（両性具有のイメージが付与される人びと）とのフィールドワークを通じて、女性の記号であるサリーを纏うという行為が、異性装ではなく、「異装」としての機能を果たしているという見解に至る。

2. 研究の目的

本研究は、異性の衣装を纏うという反復行為がもつ文化的意味の探究を切り口に、人類文化における普遍的な現象としての異性装に関する考察を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

装いの性規範を逸脱するインドのヒジュラと北米先住民のベルダーシュを考察の対象に据えて、文献研究と海外調査の二側面から異性装の比較研究を実施する。

4. 研究成果

インドのヒジュラとカナダのベルダーシュを考察の対象に据え、異性装の比較研究を実施した結果、当該社会において、異性の衣装を身に纏う行為が、単なるジェンダーの逸脱や倒錯としてではなく、異なる力や聖性を表現する実践として認識されている、あるいは、されていたことが明らかとなる。

まず、ベルダーシュとかつて呼ばれた人びとは、異性の衣装を纏い、異性の役割を担う人々として記録されているが、現在では TWO SPIRITS という新しい呼び名が与えられ、また、異装の実践も過去のものとなっている。さらに彼らは、セクシュアル・マイノリティ枠と先住民枠のどちらにも収まりながら、そのどちらにおいても中心的な存在にはなれず、二重の差異化の作用によって周縁に追いやられている現状にある。TWO SPIRITS を主に形成されるアソシエーションでは、先祖から受け継ぐ SWEAT LODGE の儀礼を継続的に行っており、その儀礼の場において、先住民の世界観におけるベルダーシュの地位や格別な力についての語りを、今に生きる人びとと共有しながら、ベルダーシュの存在意義を主張し続けている。その実践のなかに、彼らに付与された周縁性からの脱却の試みが見いだされる。

一方、今日に生きるインド、グジャラート州のヒジュラたちは、女性の記号となるサリーを身に纏い、己の異質性を外部に向けて発信する反復行為を実践している。異装が今日においても有用であるのは、インドにおける現世放棄の制度において、異装を纏うことに、俗人と現世放棄者とを区別する重要な意義が認められているためと考える。ただし、インド全土のヒジュラが皆同じ認識のもとで異装を纏っているのではないことも、北インドのデリー、そして南インドのチェンナイで生活するヒジュラたちとの接触を通じて明らかとなる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

①國弘暁子「インドのマスキュリティと現世放棄」『群馬県立女子大学紀要』33号、pp.111-118、2012年

②國弘暁子「生を委ね合う共同生活のあり方：インド、グジャラート州における現世放棄者ヒジュラの事例から」『群馬県立女子大学紀要』32号、pp.57-65、2011年

③國弘暁子「都市生活者の女神信仰と異人歓待のあり方—インド、グジャラート州の都市アフメダバードにおけるヒジュラの活動を中心に—」、科学研究費基盤研究A(海外学術)報告書『トランスナショナリズムと「ストリート」現象の人類学的研究』pp.106-125、

2010年

④國弘暁子「『ストリート』を経験する—ヒンドゥー女神バフチャラー信仰とヒジュラ」関根康正(編)『ストリートの人類学』上巻、国立民族学博物館調査報告、80号、pp.289-312、2009年(査読有)

⑤國弘暁子「異装が意味するもの：インド、グジャラート州におけるヒジュラの衣装と模倣に関する研究」、神奈川大学 COE 『若手研究者育成成果論文集』、pp.153-164、2008年(査読有)

〔学会発表〕(計7件)

①國弘暁子「政策によらない福祉のあり方とは：インドにおける乞食(こつじき)と喜捨の実践からの考察」、人間文化研究機構・国立民族学博物館、機関研究「ケアと育みの人類学」公開シンポジウム『福祉と開発の人類学：ひろがる包摂空間とライフコース』、国立民族学博物館、2012年1月21日

②國弘暁子「現世放棄者のキンシップ」アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究課題『『シングル』と社会—人類学的研究』、2011年6月19日、本郷サテライト

③國弘暁子「マスキュリティと現世放棄」NIHUプログラム「現代インド地域研究」主催平成22年度、現代インド・南アジア次世代研究者合宿、2011年3月19日~21日

④國弘暁子「聖と性の狭間におけるヒンドゥー贈与」国立民族学博物館共同研究会・研究課題「生の複雑性をめぐる人類学的研究：『第四世界』の新たな記述にむけて」、2010年7月25日

⑤國弘暁子「異装を纏う人々への歓待の作法：インド、グジャラート州におけるヒジュラとしてのあり方を中心に」『京都人類学研究会7月季節例会：歓待の人類学』、京都大学・稲盛財団記念館、2009年7月17日

⑥ 國弘暁子「去勢した者たちの情交のあり方—インド、グジャラート州のヒジュラの事例から」『日本文化人類学会第43回大会』、大阪国際交流センター2009年5月30日

⑦ 國弘暁子「異装を纏う—第四世界的状況の民族誌へ」『日本文化人類学会第42回大会』、京都大学、2008年6月1日

〔図書〕(計4件)

① 國弘暁子『ヒンドゥー女神の帰依者ヒジュラ：宗教・ジェンダー境界域の人類学』風響社、2009年(総頁数258)

② 國弘暁子「コラム：インドの『ヒジュラ』—セクシュアル・マイノリティとしての歴史」服藤早苗、三成美保(共編)『ジェンダー史叢書第1巻 権力と身体』明石書店2011年 pp.88-91

③ 國弘暁子「インドにおけるヒジュラと私のフィールドワーク：『独り』の私から、『二重』の私を感得する」椎野若菜(編)『シングル』で生きる：人類学のフィールドから』東京：御茶の水書房、2010年、pp.51-63

④ 國弘暁子「ヒジュラとセックス—去勢した者たちの情交のあり方」奥野克己、椎野若菜、竹ノ下祐二(共編)『シリーズ 来るべき人類学：セックスの人類学』横浜：春風社、2009年、pp.169-196

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.indas.asafas.kyoto-u.ac.jp/kindas/member/member_kunihiro/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

國弘暁子 (KUNIHIRO AKIKO)
群馬県立女子大学文学部・専任講師
研究者番号：20434392

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

